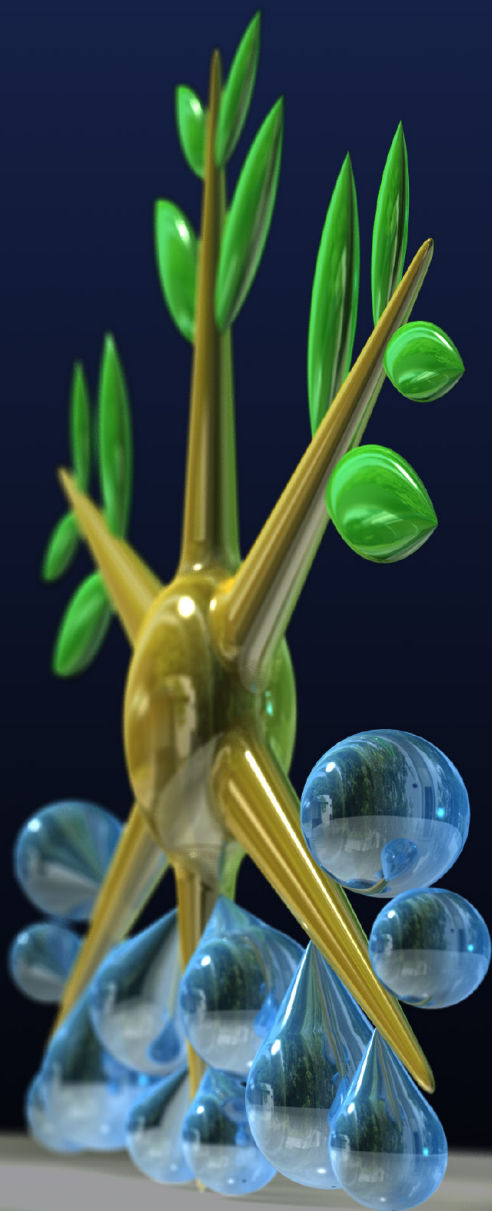




The 59th
Annual Conference of
JSSD



日本デザイン学会
第 59 回
春季研究発表大会

大会開催記念誌

ご挨拶

このたびは日本デザイン学会 第59回 春季研究発表大会
開催ならびにその実行にあたりまして、多大なご尽力を
賜り誠にありがとうございました。 お蔭さまで国内・国
外から500名を超える来場者を迎え盛会裡に会議を終え
ることが出来ました。

はじめは、札幌にどれだけ人が集まるか心配しましたが、
これだけの参加者が得られましたことはデザイン研究へ
の関心が内外で非常に高かったことを裏付けているよう
に思います。これもひとえに関係者の皆様の長年にわた
るご尽力の賜と厚く御礼申し上げます。 また当日はいろ
いろと不手際もありご迷惑をお掛けしたこともあったか
と存じますが、会議の成功に免じてお許しいただきたく
お願い申し上げます。 最後に、関係各位のますますのご
発展をこころよりお祈り申し上げます。

平成24年7月吉日

日本デザイン学会
第59回
春季研究発表大会

大会委員長
原田 昭

大会情報

開催期間

2012年6月22日(金)～24日(日)(3日間)

開催会場

札幌市立大学 サテライトキャンパス
(6月22日(金曜日))

札幌市立大学 芸術の森キャンパス
(6月23日(土曜日)、24日(日曜日))

参加登録者：530名

研究発表件数：291件(不成立発表を除く)

内 口頭発表：198件

内 ポスター発表：93件

ゲスト参加者：5名

企業出展社数：12社

協賛団体出展数：5団体

当日参加者：約30名(札幌市民等)

学生スタッフ：82名

合計：約640名、12社、5団体



The **59th**
Annual Conference of
JSSD

大会初日（6月22日（金））

@サテライトキャンパス

- ・受付
- ・総会
- ・開会式
- ・記念講演
- ・エキスカーション

受付

2012年6月22日（金曜日）大会初日の受付では、札幌市立大学 デザイン研究科の学生スタッフが参加者の皆様をお出迎えいたしました。



総会

平成 24 年度 日本デザイン学会 第 59 回総会では、本年度より会長に就任した山中敏正会長（筑波大学）からの挨拶と活動方針の説明にはじまり、滞り無く議事が進行されました。また、以下の皆様に名誉会員賞の贈呈がございました。

- 77号 岩田 州夫 氏
- 78号 上原 勝 氏
- 79号 河原林 桂一郎 氏
- 80号 庄子 晃子 氏
- 81号 野口 尚孝 氏
- 82号 降旗 英史 氏





開会式

日本デザイン学会 第59回 春季研究発表大会の開会式は、大会実行委員長の酒井正幸教授（札幌市立大学 デザイン学部）の挨拶で始まりました。

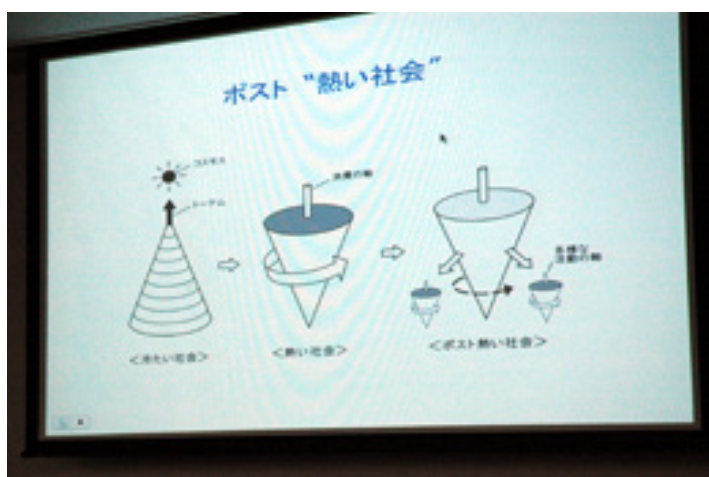
大会長の原田昭（札幌市立大学 デザイン学部）からの挨拶に加え、ご来賓としてご出席頂きました、札幌市長 上田文雄 様にご挨拶を頂き、平日金曜日の初日ではございましたが、多くの学会員の方にご参加頂きました。



記念講演（市民公開）

2012年4月より札幌市立大学の理事長・学長に就任した蓮見孝氏による講演「地域を変える横断型知力としてのデザイン」が盛況の内に行なわれました。茨城県から来札した道外者の視点から見た北海道の魅力にはじまり、協働による実感価値に重きを置いた「ポスト"熱い社会"」の可能性を、具体的な事例をもとにお話頂きました。

なお、本記念講演は、一般公開され、多くの札幌市民の皆様にもご聴講頂きましたが、180名の会場にて立ち見がでる大盛況となりました。



エクスカーション

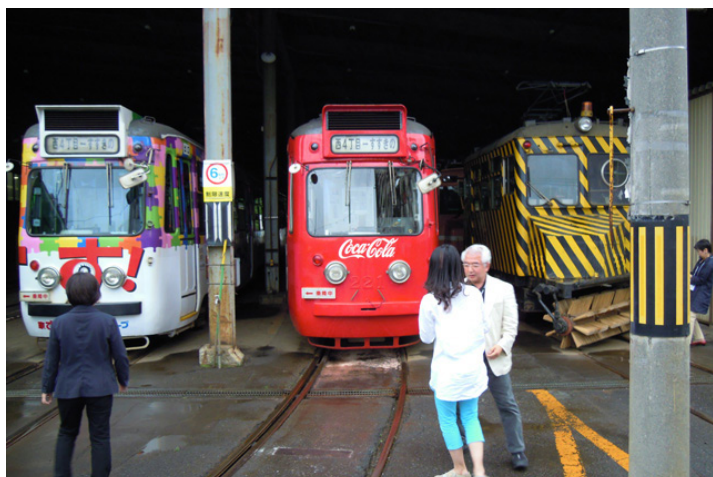
当日にご参加頂いた方も多く、予定していた定員の約 60 名の方にご参加頂きました。

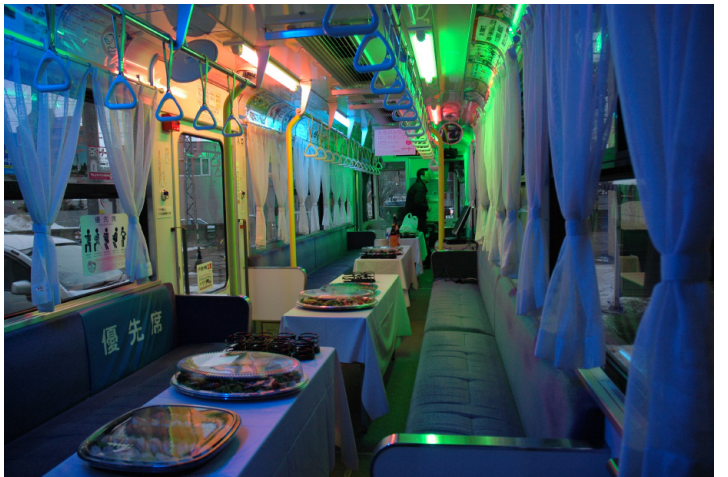
記念講演会終了後の札幌市立大学サテライトキャンパス（JR 札幌駅南口）を、スタッフの誘導で徒歩でスタートしました。2011 年 3 月に開通した札幌駅前通地下歩行空間（札幌駅と大通駅を繋ぐ、移動のみにとどまらない賑わい創出地下空間）を移動し、地上に上がり、札幌市電（路面電車）に西 4 丁目駅から乗車しました。

社内では、お食事、お飲物が振舞われ、車窓からのぞく札幌市の夜の街をご堪能いただきました。

途中、電車事業所（路面電車基地）をトイレ休憩的に経由しましたが、ササラ電車の見学も行なわれました。

すすきの駅に至る車内での約 1 時間をお楽しみ頂きました。







The **59th**
Annual Conference of
JSSD

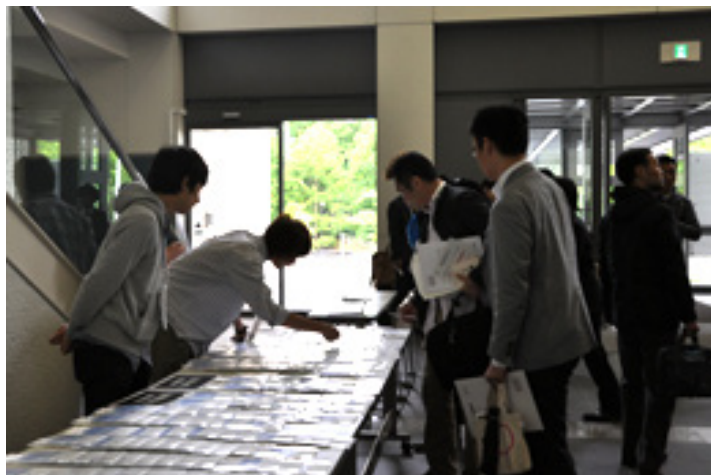
大会二日目（6月23日（土））

@芸術の森キャンパス

- ・受付
- ・企業展示
- ・口頭発表 AB
- ・特別セッション
- ・学生交流 WS
- ・ポスターセッション A
- ・オーガナイズドセッション A
- ・オーガナイズドセッション B
- ・懇親会

受付

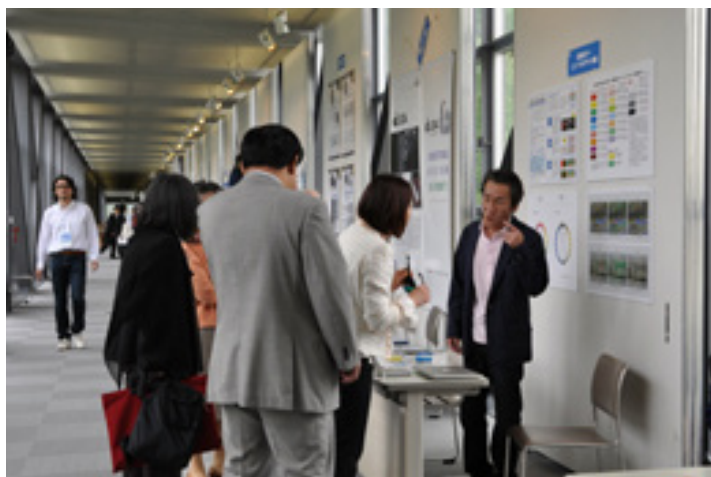
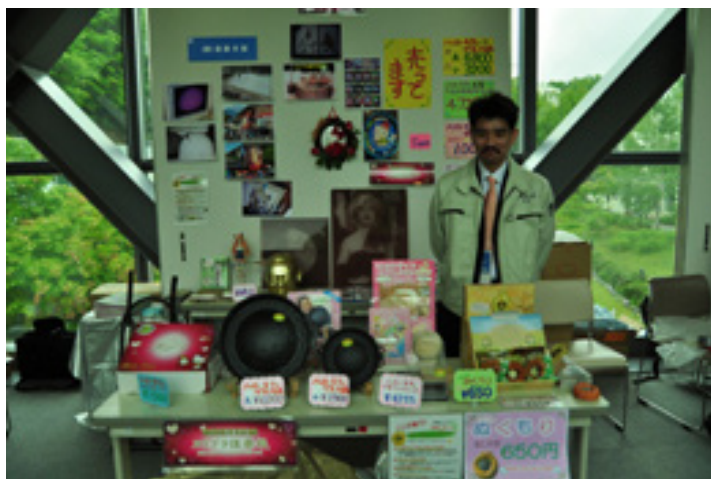
2012年6月23日（土曜日）大会会場を芸術の森キャンパスに移した大会2日目ということもあり、多くの会員の皆様の参加受付が行なわれました。主に、札幌市立大学 デザイン学部の学部生を中心とした学生スタッフが、皆様をお出迎えいたしました。

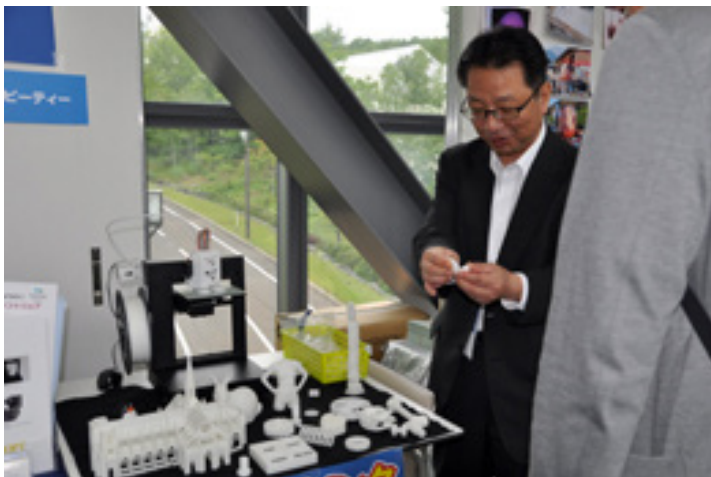


企業展示

大会2日目、3日目の芸術の森キャンパス スカイウエーでは、企業展示が行なわれました。

本スカイウエーは、札幌市立大学 芸術の森キャンパスにおいて、各教室を繋ぐ通路であるとともに、展示に特化した空間となっていることから、多くの会員の皆様が足をとめる様子がみられ、12の企業様、5つの協賛団体様による、合計17のブースが活気をみせました。





口頭発表 AB

2012年6月23日（土曜日）9時～11時の時間帯に口頭発表Aが、12時55分～15時15分の時間帯に口頭発表Bが、全10室にて行なわれました。学会員の皆様の積極的なご発表と、活発なご討議がなされました。





特別セッション

地場から産まれる

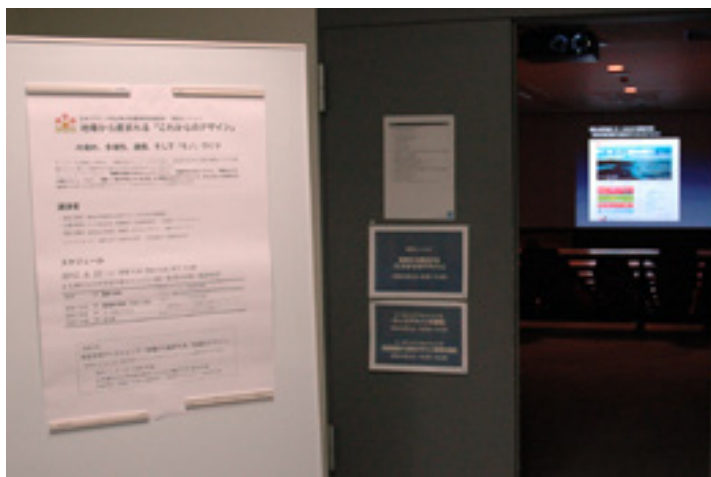
「これからのデザイン」

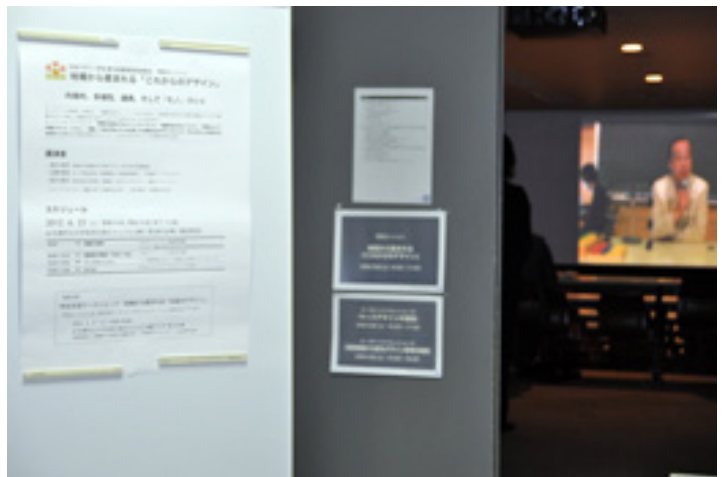
福田大年氏、小宮加容子氏（札幌市立大学）をコーディネーターに、「地場から産まれる「これからのデザイン」」をお題に特別セッションが開催されました。（本セッションは、市民に公開されました。）

まずはじめに、渡辺保史氏（東海大学国際文化学部デザイン文化学科客員教授）、近藤篤祐氏（モリタ株式会社〔紙器製造・包装資材販売〕・北海道フードマイスター）、相沢康夫氏（漫画家、おもちゃデザイナー、積木パフォーマー）に、地場に根付いたデザインのありかたを、具体的な事例をお示し頂きながらご講演頂きました。

講演後、会場参加者を含め、ディスカッションが行なわれましたが、本セッションは、学生交流ワークショップと連動した企画と位置づけられ、ワークショップのオリエンテーションを兼ねたものでした。会場内の全席にはポストイットがおかれ、本セッションの講演を聴講した参加者は、気づいたことをポストイットに記載し、後のワークショップに活かす試みがされました。

なお、本セッションはUstreamでリアルタイム配信されました。





学生交流ワークショップ

地場から産まれる「玩具のデザイン」

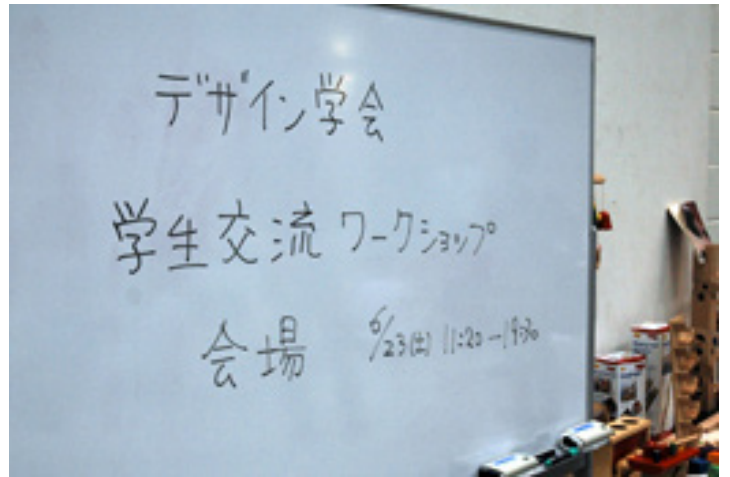
テーマ：音の鳴る玩具の企画提案

福田大年氏、小宮加容子氏（札幌市立大学）をコーディネーターに、学生交流ワークショップ「地場から産まれる「玩具のデザイン」」テーマ：音の鳴る玩具の企画提案が22名の参加者にて開催されました。（札幌市立大学 デザイン学部の学部生5名が学生サポーターとして参加）

本学生交流ワークショップは、特別セッションとの連動企画として位置づけられ、特別セッションをオリエンテーションとし、その後の11時から開始、14時30分にはミニ発表会、18時には最終プレゼンという密度の濃いイベントとなりました。

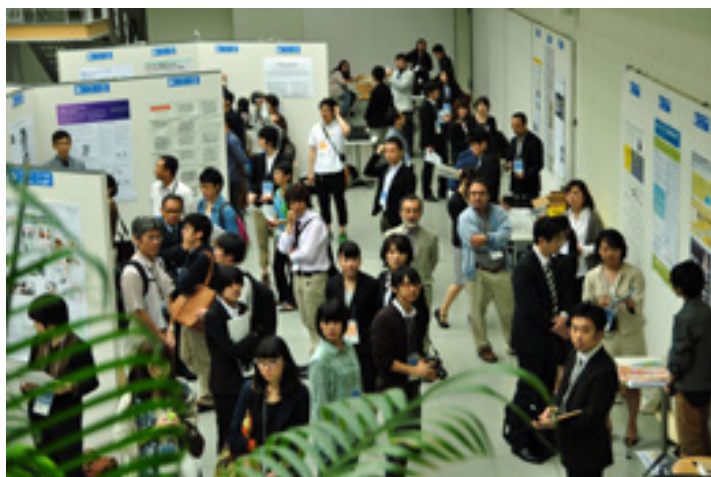
事前のメール交流があったこともあり、短期間にもかかわらず、全チームが試作を発表することができました。

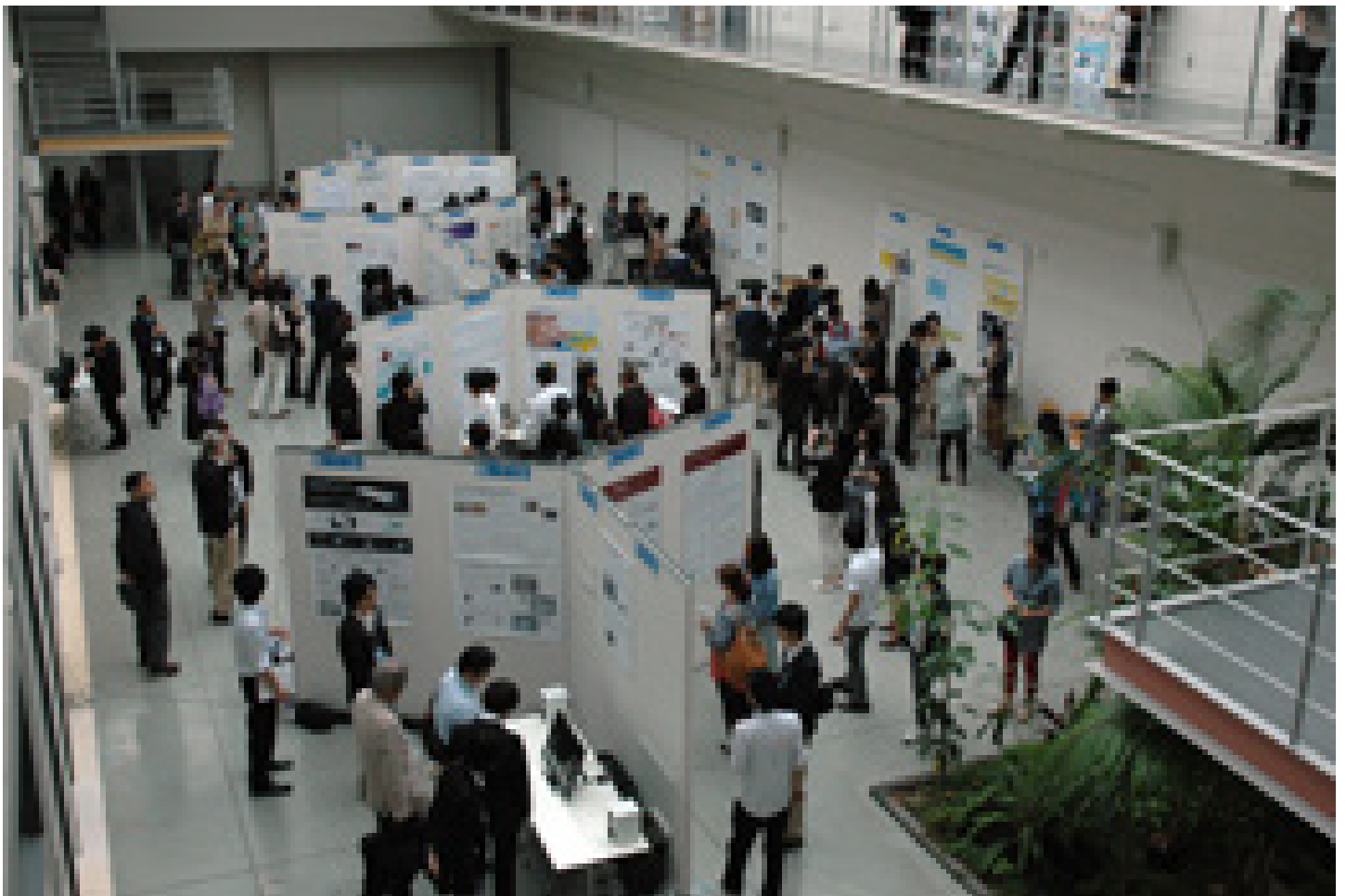
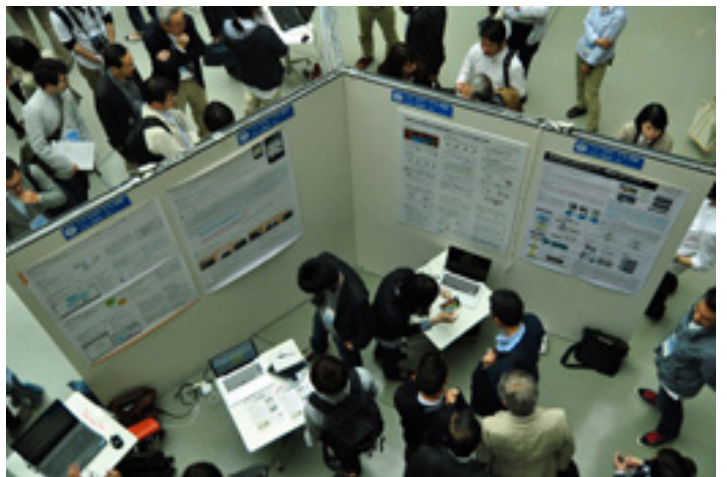
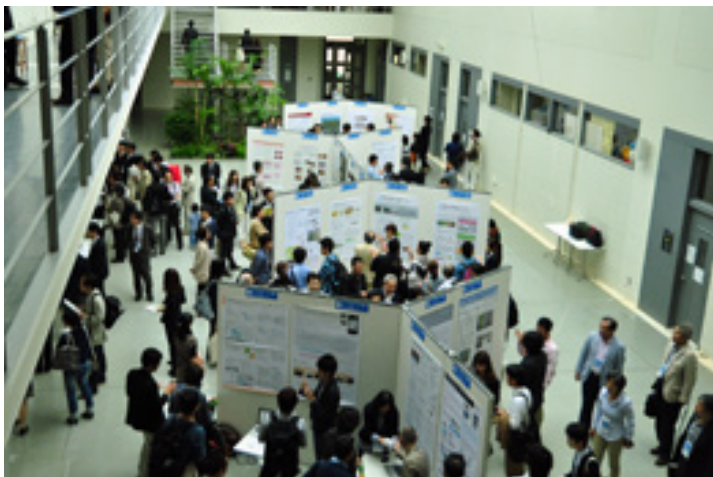
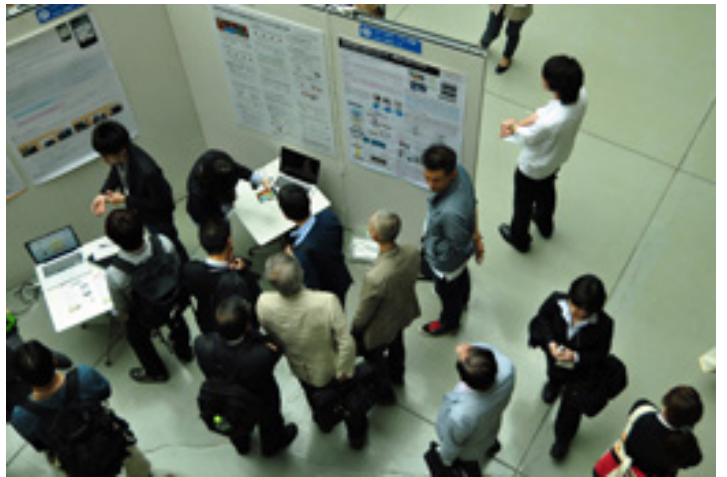




ポスターセッション A

2012年6月23日（土曜日）11時15分～12時15分をコアタイムにポスターセッション Aが開催されました。本セッションでは、53件のポスター発表が行なわれました。





オーガナイズドセッション A

つなぐ 環境デザインがわかる

長谷高史氏（愛知県立芸術大学）を司会に、テーマを「つなぐ 環境デザインがわかる」として、オーガナイズドセッション A が行なわれました。

セッションではまず、「人でつなぐ」視点で環境デザインを捉えると題して佐々木美貴氏（環境デザイナー）が、「モノでつなぐ」視点で環境デザインを捉えると題して橋田規子氏（芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授）が、「場をつなぐ」視点で環境デザインを捉えると題して清水泰博氏（東京芸術大学美術学部デザイン科教授）が、「時をつなぐ」視点で環境デザインを捉えると題して平松早苗氏（ランドスケープデザイナー）が、「コトがつなぐ」視点で環境デザインを捉えると題して太田幸夫氏（NPO 法人サインセンター理事長）と武智稔氏（環境デザイナー）が、「つなぎ方」の視点で環境デザインを捉えると題して杉下哲氏（東京工芸大学芸術学部デザイン学科教授）が、震災後のデザインと題して小地沢将之氏（仙台高等専門学校）、伊藤真市氏（宮城大学）が、具体的な事例を示しながら、各日本のモノづくりに関する講演を行ないました。

講演後、会場の参加者を交えて、講師全員と活発なディスカッションが行なわれました。



オーガナイズドセッション B キッズデザインの展開

山中敏正氏（筑波大学）を代表者に、テーマを「キッズデザインの展開」として、オーガナイズドセッション B が行なわれました。

セッションではまず、山中敏正氏（筑波大学）、西田佳史氏（産総研）、岡崎章氏（拓殖大学）、浅香嵩氏（JIDA）が具体的な事例を示しながら、子供を対象としたデザインに関する講演を行ないました。

講演後、会場の参加者を交えて、講師全員と活発なディスカッションが行なわれました。



懇親会

レストラン芸術の森

2012年6月23日（土曜日）18時30分～20時30分、大会会場に隣接する札幌芸術の森にある「レストラン芸術の森」にて、懇親会が開催されました。

本懇親会会場までの豊かな自然環境の道のりを、多くの会員の皆様に徒歩で移動して頂きました。また、冒頭には、札幌市立大学が誇る YOSAKOI ソーラン部～真花（まなか）～が演舞を披露し、協賛企業のサッポロビール株式会社 北海道本社 様より、北海道限定商品の「サッポロクラシック」が振る舞われました。

予想より多くの会員の皆様にご参加頂き、会場が若干狭い印象となりましたが、北海道の海の幸、大地の幸をご堪能いただきながら、会員間の交流がはかられました。

会の中では、札幌市立大学の副学長 中村 恵子 教授（札幌市立大学 看護学部）、札幌市立大学 理事長・学長 蓮見孝教授が挨拶申し上げます。また、日本デザイン学会長の山中敏正教授、次回の第60回記念大会の実行委員長予定者の五十嵐浩也教授からご挨拶を頂きました。







The **59th**
Annual Conference of
JSSD

大会三日目（6月24日（日））

@芸術の森キャンパス

- ・受付
- ・企業展示
- ・口頭発表 CD
- ・特別企画
- ・ポスターセッション B
- ・オーガナイズドセッション C
- ・オーガナイズドセッション D
- ・閉会式

受付

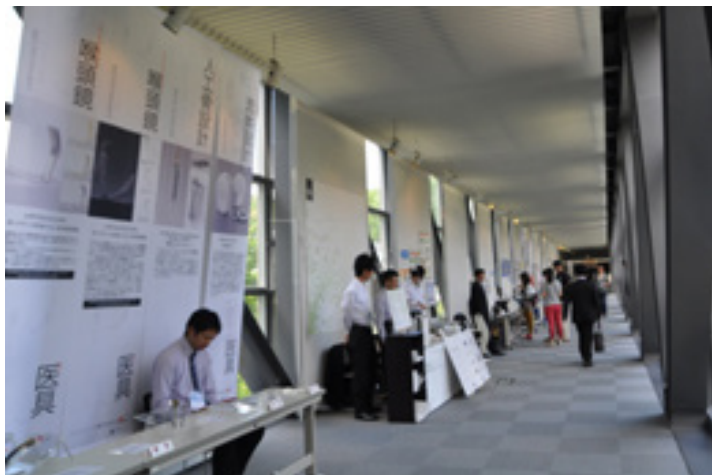
受付のほとんどが大会2日目で終了した為、大会最終日の受付では、列ができるようなことはあまりありませんでした。

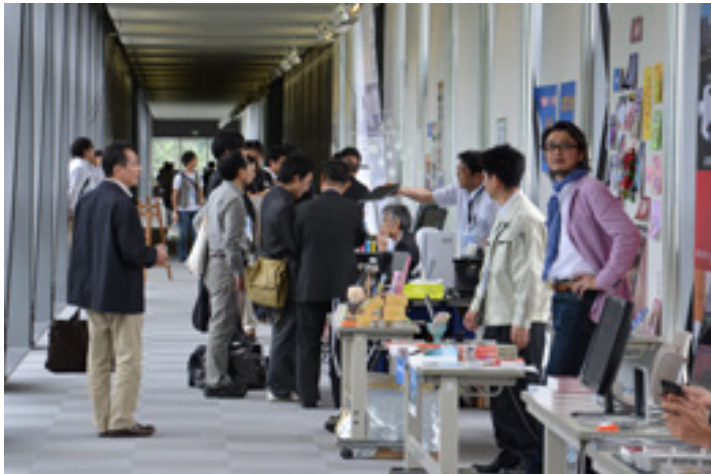


企業展示

2012年6月24日（日曜日）も前日に引き続き、企業展示が行なわれました。

ご出展頂いた企業様の一部には、前日よりスタッフの動員数を増やしてご対応頂いておりました。多くの会員の皆様が展示に興味を示して頂いたということかと思いますが、活発な交流がなされたこと、実行委員会では嬉しく思います。





口頭発表 CD

2012年6月23日（日曜日）9時～10時40分の時間帯に口頭発表Cが、10時50分～12時30分の時間帯に口頭発表Dが、全10室にて行なわれました。前日に引き続き、学会員の皆様の積極的なご発表と、活発なご討議がなされました。





特別企画

札幌市立大学 キャンパスエコツアー

2012年6月24日(日曜日)10時50分～12時10分に、特別企画「札幌市立大学 キャンパスエコツアー」が開催されました。本芸術の森キャンパスは札幌市立大学の前身である、札幌市立高専の初代校長である建築家・清家清先生によりデザインされた校舎と、豊かな自然からなっています。

本ツアーは、建築（校舎内）ツアーと、ランドスケープ（校舎外）ツアーからなり、2グループに分かれて校舎内外の見学を行ないました。

建築ツアーでは、「学生にとっては実物大の教科書・教材」と表される、現学長室をはじめとした校舎の見学を行ないました。（ガイド：札幌市立大学 羽深久夫教授）

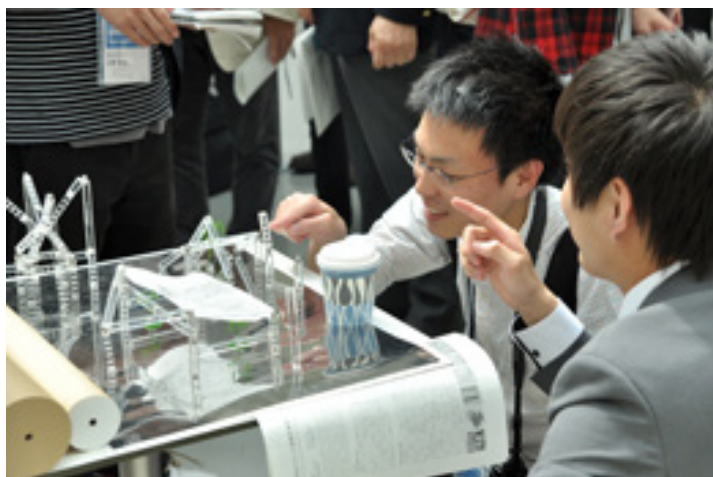
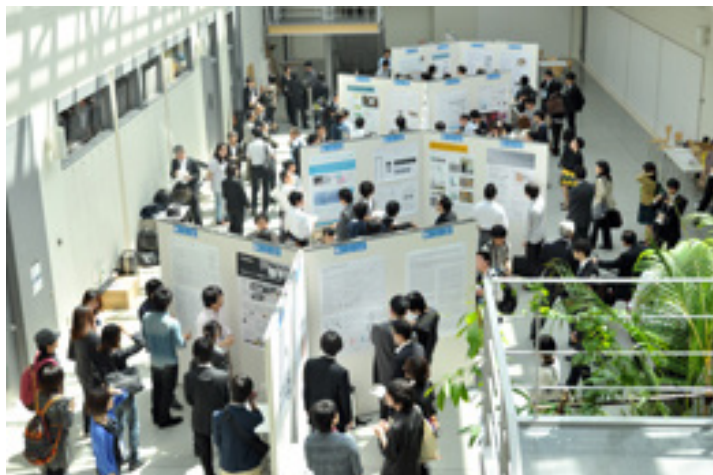
ランドスケープツアーでは、キャンパス内の植生の特長をわかりやすく説明しながらの散策となりました。（ガイド：札幌市立大学 羽深久夫教授）

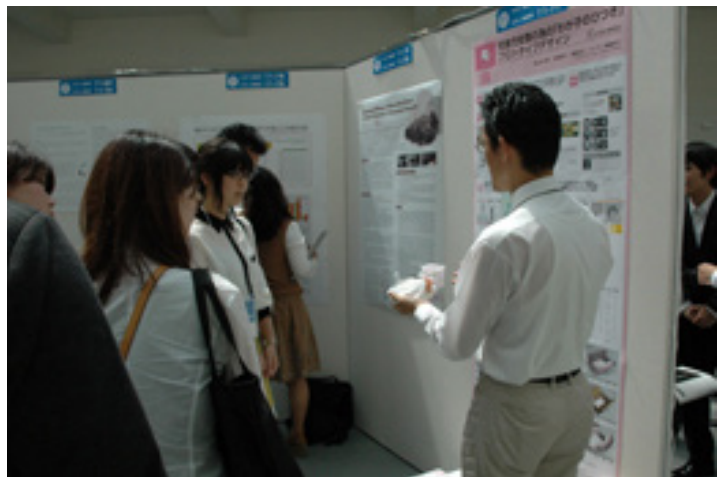
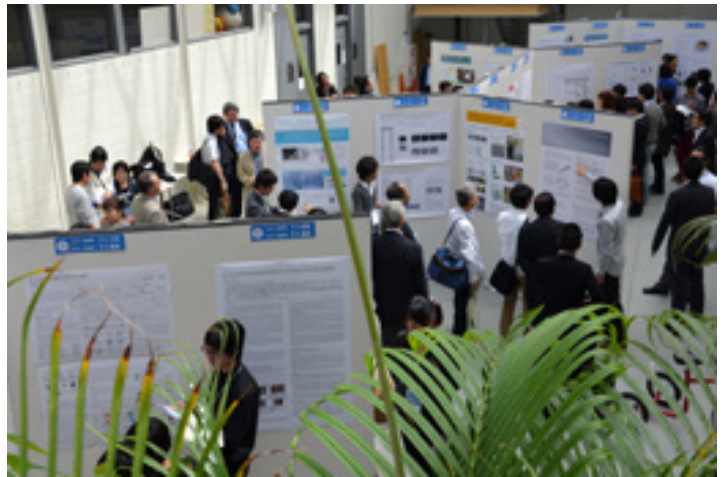
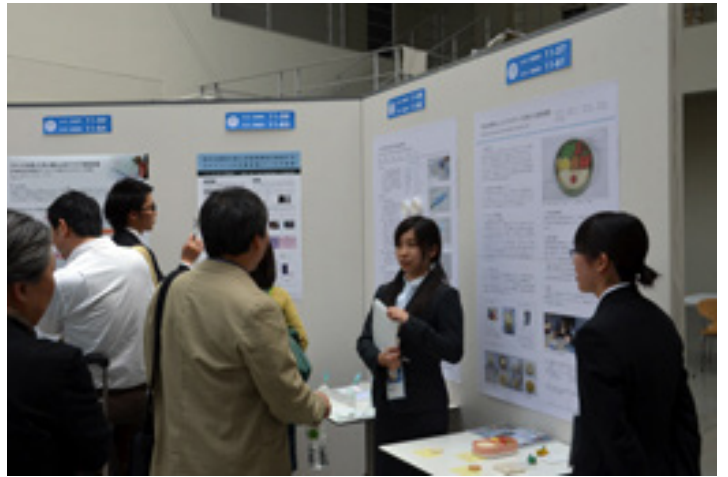
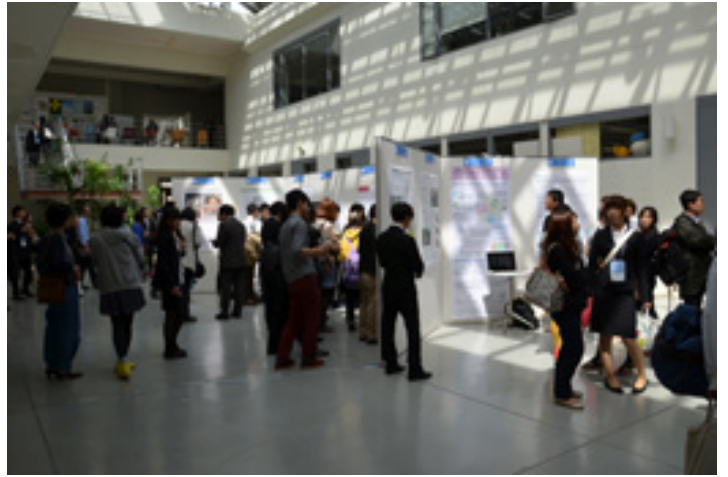
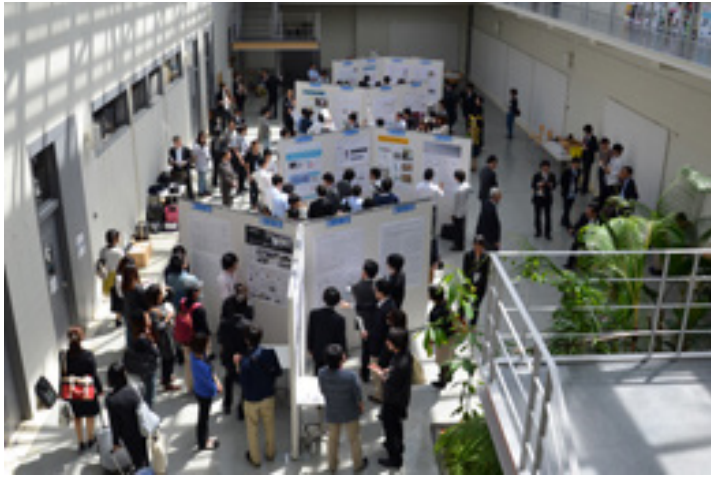




ポスターセッション B

2012年6月24日（日曜日）13時15分～14時15分をコアタイムにポスターセッションBが開催されました。本セッションでは、前日に引き続き、40件のポスター発表が行なわれました。





オーガナイズドセッションC

これからの日本の

モノづくりとデザイン

山崎和彦氏（千葉工業大学）を司会に、テーマを「これからの日本のモノづくりとデザイン」として、オーガナイズドセッションCが行なわれました。

セッションではまず、「看護との連携と地域からモノづくりを考える」と題して酒井正幸氏（札幌市立大）が、「地域を繋ぐ、復興支援デザインの実践」と題して原忠信氏（筑波大学）が、「ICTとこれからのモノづくり」と題して上田義弘氏（富士通）が、「デザインスキルの広がり」と題して塚原肇氏（実践女子）が、「体験と地域からモノづくりを考える」と題して山崎和彦氏（千葉工業大学）が、具体的な事例を示しながら、各日本のモノづくりに関する講演を行ないました。

講演後、会場の参加者を交えて、講師全員と活発なディスカッションが行なわれました。



オーガナイズドセッション D

演習課題から探る

デザイン思考の特質

宮城大学の伊藤真市准教授を司会に、テーマを「演習課題から探るデザイン思考の特質」として、オーガナイズドセッション D が行なわれました。

セッションではまず、「想像力のトリガー／着想への気づき」と題して合原勝之氏（アイハラ・デザイン・オフィス株式会社）が、「野に出て生活を学ぶ・地域の光をデザインする」と題して三橋俊雄氏（京都府立大学大学院）が、「「地域こそユーザー」の眼差しを育てる」と題して黒川威人氏（金沢美術工芸大学（名誉教授））が、「安心の設計演習」と題して原田昭氏（札幌市立大学）が、具体的な事例を示しながら、各演習課題の裏に潜む教員の狙いや想いを講演しました。

講演後、会場の参加者を交えて、講師全員と活発なディスカッションが行なわれました。



閉会式

閉会式ではまず、論文審査委員会の久保光徳教授（千葉大学）から、本大会で行なわれた研究発表の内、優秀なものに与えられる24件のグッドプレゼンテーション賞の発表がございました。

続いて、実行委員長の酒井正幸教授（札幌市立大学）、日本デザイン学会長の山中敏正教授（筑波大学）からの本大会の総評がございました。

また、本大会の運営に尽力したとして、日本デザイン学会から、本大会の幹事校である札幌市立大学の理事長・学長である蓮見孝教授に感謝状が贈呈されました。

最後に、次年度、第60回となる記念大会の大会幹事校を務めることが決まった筑波大学の実行委員長予定者である五十嵐浩也教授から、来年度の大会開催に関するご案内があり、閉会を迎えました。





会場の様子

大会2日目、3日目は、札幌市立大学 デザイン学部がある、芸術の森キャンパスを会場に行なわれました。本キャンパスは、札幌市立大学の前身である札幌市立高専の初代校長である建築家・清家清先生によりデザインされた校舎であり、学会員の皆様からは、20年経っているとは思えない美しさとの評価を頂きました。





学生スタッフ

本大会の3日間の運営は、86名（延べ219名）の札幌市立大学 デザイン学部、および、デザイン研究科の学生によって行なわれました。多くの学生の積極的な行動により大会がスムーズに運営されました。なお、閉会式では、学会長から「学生スタッフの笑顔が印象的であった」とのお褒めのお言葉を頂きました。

スタッフの皆さん、有り難うございました！





JSSD59 大会記念誌 あとがき

大会開催記念誌発刊にあたって

約 10 年ぶりの北海道での開催。また平成 18 年開学の
本学芸術の森キャンパスで初めての全国大会。近所には
コンビニが 1 軒あるだけの文字通り森の中の会場。はる
ばるお越しいただく皆さまにはたして十分な「お・も・て・
な・し」ができるだろうか？不安満載の中で始まった第
59 回春季大会は、実行委員会の予想を裏切る大盛況の
3 日間となりました。

もちろんその裏には学会本部、地元企業・団体の方々の
絶大なるご支援があったことは言うまでもありません。
嬉しかったのは、けっして交通の便がよいとは言えない
森の中のキャンパスの潜在的な魅力をそれなりに引き出
せたこと、小規模の大学ならではの教職員、学生の家族
的なつながりによる一枚岩の協力体制が築けたこと、等々
です。

もちろん良いことばかりではありませんでした。十数キ
ロも離れた 2 会場での開催が一部の参加者の方々を混乱
させてしまったことや、会期が他の大規模学会と重なっ
たため、宿舎斡旋に直前まで四苦八苦したこと、反省事
項も少なからずあげられます。

さて、次に会員の皆さまをお迎えするのはいったいい
つになるのでしょうか？そのときに備えて、今大会の記
憶をとどめておきたいと思い、実行委員会有志でこの小
冊子を編集いたしました。これとは別に編集した「日本
デザイン学会大会開催虎の巻」とともにご一読いただい
ければ幸いです。

平成 26 年 3 月吉日

まだ雪の中の芸術の森キャンパスにて
大会実行委員長 酒井 正幸



日本デザイン学会 第59回 春季研究発表大会 大会開催記念誌

発行日：平成 26 年 3 月 31 日

発行者：札幌市立大学デザイン学部

第 59 回日本デザイン学会春季研究発表大会実行委員会

〒 005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目

☎ 011-592-2300 (代)

編集：酒井正幸, 齊藤雅也, 大淵一博, 柿山浩一郎

